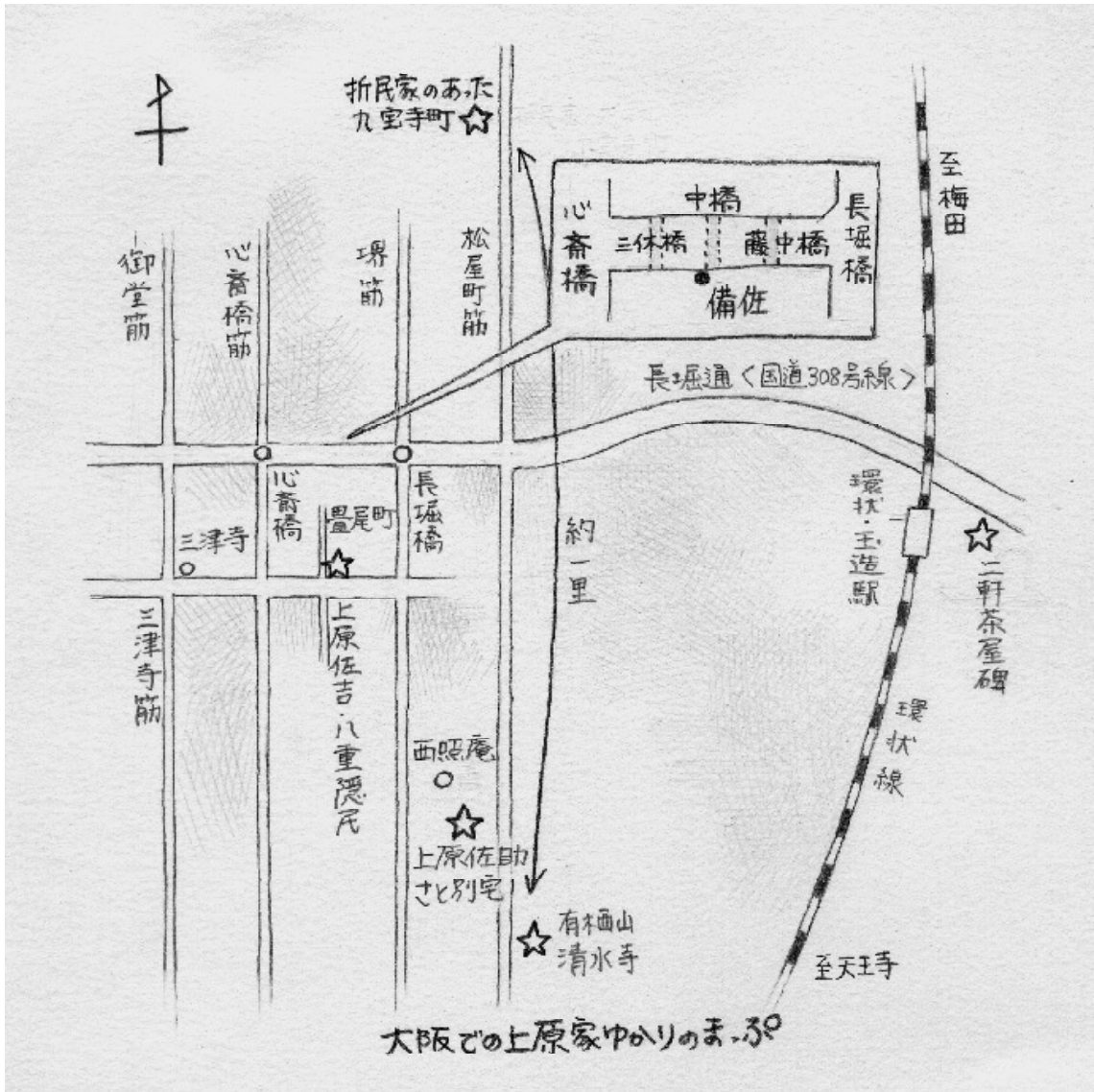


発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311
FAX 66-1314

かさおか



をやの思いをにをいかけ、

うちうち
内治に心を配り おたすけに誠の心を尽くそう

1. 一歩前進 百万軒
2. おつとめの徹底とひのきしん
3. 機を逃さず おさづけの取次

表紙のことは

引き続き玉造二軒茶屋について述べる。この時の洪水の様子をさとの佐吉・八重宛の手紙で紹介する。「猶先日の大洪水に大きに困り、ご存知の通り荷物乳母方へ運び、又借り宅畳建具、箆笥のような物運び候所、なかなか斯様な事はあるまいと油断いたし候所大水につき舟にて荷を出して貰いそれゆえ大きに物入。……」油断いたし、とあるが、この時の洪水は二度三度と大阪全域を湖のようにしてしまった。

「大阪百年史」によれば、「六月上旬からの雨で十日、土佐堀川の水量は三・五メートルに達し、十七日夜、天野川堤防と三矢村の淀川堤防が決壊した。その被害戸数は一万四千戸。続いて七月二日、枚方付近で堤防が決壊した。その後大阪市内の浸水が甚だしく中之島等では軒下十五センチまで浸水しかろうじて屋根に避難した人々が、舟に救いを求めた。結果、天

満、天神の両橋をはじめ大阪市内のほとんどの橋は流失した。府下全域の被害は、流失家屋二万六千余戸、死者二百九十人余を数えた。」

大教会史には、「この時、洪水の為、さとは多くもない金をほとんど使ってしまった、懐中に、二円残っただけであった。——東が（後、東大教会初代会長になった佐助を、さとはこのように呼んでいた。）東京へ行くについて、船賃が七十五銭足らぬというので、又出して、残りが一円二十五銭となった。私はとても心細かった。——」とある。この時佐助は東京の碓清水という畳表商に勤める事になっていた。その月給の二十五円の内、五円をさとの許に送るという事だったのであるが、佐助は東京に出るなり腹部に大きな腫れ物ができて勤めどころではなくなり、結局さとの許への仕送りはなかった。

お雪の四人であったが、その苦しい生活を見かねて実家・川合家から九月上旬鹿造を引き取りに来た。この時の模様を、笠岡分教会史には、次のように述べている。

「鹿造を伊賀へやったのはお房が生まれてから後の事、どうで其の年の九月初頃の事やったる。鍬吉（椿卯之助氏と同じ備佐の店員。）が大島（備佐の老舗を購入した店）へ奉公して伊賀伊勢の得意廻りをして居ったので、その序でに川合に寄って話したのやろ。そしたら兄が子供なら一人くらい世話してやろうという事で、向こうから人を以って連れに来た。籠の一方へ鹿造を入れ、一方へ荷物を載せて連れて帰った。夫れから十二の歳まで伊賀に居った。」

初代は、そうした中、常に笠岡へ帰った舅・姑の佐吉・八重の上を案じて手紙を書き、八重の状態が悪いと聞けば本田の井筒氏（芦津大教会の元）の元に出向きお願いごとめしてもらい、御供さんの生活費の中から盆、暮れの節季に

は、高野豆腐、黒砂糖（佐吉の好みだった）等を送って機嫌を伺っている。

この年明治十八年暮れ頃には、手紙の中に「大阪の方、規則立て行き候……」との言葉が出ている。「規則立つ」とは、大阪の言葉で生活がきちりとしてできるという意味である。初代は、この中、何度も佐吉・八重夫妻に大阪へ出て来るように勧めている。それは佐吉の希望でもあった。しかし笠岡へ帰って後、寝たきりとなった八重の事を考えると佐吉はどうしようもなく、いっそさと笠岡へ帰ってほしいと思うようになった。今から思えば、はかり知れぬ親神様の思召であったのかも知れない。何度も手紙のやりとりがさとと佐吉の間で行なわれ、佐吉が大阪へ来たり、最後にさとが笠岡へ出向き、翌明治十九年六月、さと「規則立ち」始めた大阪・玉造二軒茶屋での生活を終えて笠岡の舅・姑の許へ身を寄せる事となった。

（史料部長 上原繁道）



青年ひのきしん隊に入隊して

上下分教会 押尾啓司

僕は、始め入隊したときものすごく緊張してドキドキしていたけど、皆やさしい人達ばかりですぐに緊張感がとれて周りの人とも話せるようになり、ものすごく楽しく思えてきてこんなに楽しい所だとは知らなかった。

ひのきしんのほうでは、始めに2日ぐらい雨が降りどうなるのかと思っただけど、その次の日には、晴れになり少し動くだけで汗だくなりカンカンでりの中で、パレードスタンドの設置に



いども皆なれた手つきで、次々とパレードスタンドを組立てるのに必死になり時間をきにするこなくあつというまに半分ぐらいできて、皆疲れた顔すらみせずむしろ心の中まですっきりとしたような感じでまだまだできるという表情でした。そして、パレードスタンドを組立てることができた喜びをかみしめながら皆パ

レードスタンドをあとにし、次のひのきしん現場へ行くのでした。

そのあと2つの班に別れて、別々のひのきしんを何回かして、そろそろ一個班でやりたいと皆が願っていたら次の日のひのきしん現場が久しぶりの一個班と先生が言うとお喜びではしゃぎ夜の手をどり学びとおふでさきと誦達を拝読し終り、そして夜の挨拶をしたあと皆で楽しくご飯を食べながら飲んだりしゃべったりして、皆楽しそうに自分の話や趣味の話などをして、その他色々な話していました。そして次の日には、気を引き締めて、ひのきしんにはげみ皆楽しそうにひのきしんをしていました。

僕が一番楽しみにしていたひのきしんは蛇谷山で、いったいどんな感じの所かと思っただけ、他の人はあそこは危険だから気を引き締めていじめといわれ声をだしていかないと、痛いめにあうといわれた。そして、

いよいよ蛇谷山に行く日が来て僕も皆も気を引き締めて、ついに現場につき準備をととのえいざひのきしん現場に行く僕が想像していたのとちがっていておどろき、皆がいていたことが理解できた。

ものすごく急斜面で、一步踏みはずせば転げ落

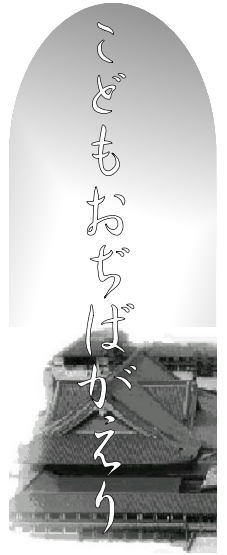


ちてしまう所だというのがわかり慎重にさがり、そして、でっかい丸太を皆でしに落としその作業をくりかえしながらひのきしんをさせていたただき無事に作業が終り皆ケガなく一日とおらせていただきました。

今回初めて青年ひのきしん隊に来て、僕は感じました。それは皆楽しくひのきしんにうちこむ姿がすばらしく感じて、ときにはハメをはずすようにさわぎとても楽しそうにしている姿に感動してもう一度このひのきしん隊で汗を流しそして勇めるような心でとおらせてもらいたいです。

本当に青年ひのきしん隊に来て楽しくすごせて心の中までキレイになる感じがして、とても楽しい一ヵ月でした。ぜひ皆さんも参加してみてもいいですか？ 自分が思っているよりかは、とても楽しい所です。ありがとうございました。

こどもおぢばがえり



今年の「こどもおぢばがえり」は、7月26日が台風の影響で雨となったが、翌27日から最終日の8月4日までは、好天気というより、正に酷暑という中に10日間で26万人余の帰参者でした。

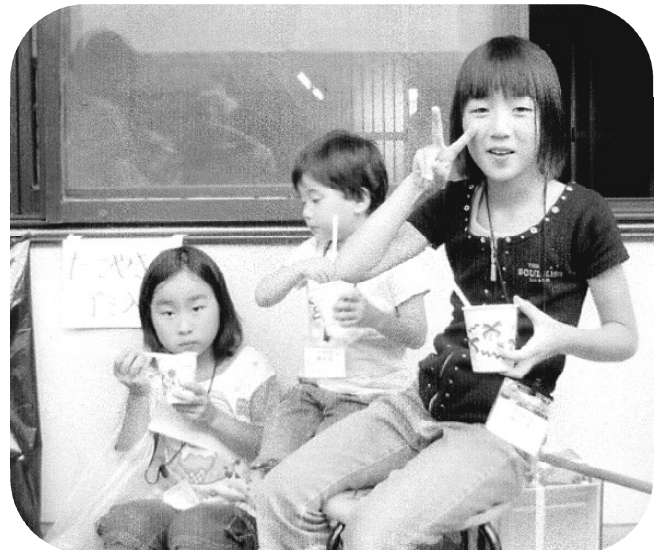
大教会では、26日の高屋団体を皮切りに、各ブロック、教会単位で次々と帰参が続き、詰所は、連日子供達の明るく、元気な声で活気のある毎日でした。しかし、年々子供達のマナーが良くなったのか、大騒ぎをしたり、暴れてけがをするということもなかったようで結構なことでした。

また、今年から育成掛による朝のおつとめ、ラヂオ体操、目標発表などケジメのある日課となったようです。例年のようにやはりお楽しみが一番は、なんといっても中庭での模擬店でしょう。育成掛のお兄さんが威勢よくけすったかき氷やお姉さんが丁寧に揚げたフライドポテトは、おやつ定番で一番人気でした。

今年初めてお目見えしたパットゴルフは、やはり男の子に人気集中で、将来のプロ？を目指そうとしているのかクラブをにぎり、ボールを見る目は、真剣そのものです。また、おなじみの館内ク

イズも好評で、詰所のあちこちで友達どうし相談する姿がみられました。

ところで、ことしも直轄、福山、高屋、島根の4鼓笛隊が日頃の練習の成果をお供え演奏しました。子供達にとって神様と真剣に向き合う場面があるということは素晴らしいことです。毎年感じることですが、「こどもおぢばがえり」は、面白さだけだったらディズニーランドに負けますが、



なによりも手作りの素晴らしき、欲を忘れたひのきしんの心意気を感じたときには、無条件で熱いものがこみあげます。少年ひのきしん隊の「お茶いかがですか、お茶いかがですか」という声と真に明るい笑顔は、これでお道は大丈夫だ、と思わせる。一方詰所では、人が見ていない食堂裏で一人、もくもくと大きな鍋を洗っている人は、徳人だなあと遠方で見えちゃう。今年も大勢の心と体の一手一つが私たちに感動を与えてくれました。

「こどもおぢばがえり」ありがとう。
 (少年会団長 中島 誠治)

盛況だった模擬店、 詰所内クイズと パターゴルフ

少年会からおぢばがえり実行部として活動が変わった今年からの詰所行事。今年から新たにパターゴルフも加わり、詰所二階の渡り廊下で多くの子供達が参加し楽しむ顔が見れました。盛況だった模擬店も多くの方々の尽力とひのきしんによって沢山の子供達に喜んで帰って貰うことが出来ました。紙面を借りてお礼を申し上げます。

さて、詰所内で行われたクイズですが、今年は昨年の倍以上の回答がありました。全部で319人がクイズに参加してくれ、次の少年会員の皆さんが最高得点を獲得しました。おめでとございます。景品を全員に渡したいのですが、約束通り各日より5名ということで行事部で厳正に抽選しました結果、当選された方に「抽」を名前の後に記載しました。後日景品をお渡しいたします。

最後に今年のクイズの問題と解答をこの紙面に掲載させていただきます。来年も楽しみにしててください。

(大教会) おぢばがえり実行委員会

行事部主任 上原志郎

【小学校低学年の全問正解者】

- 谷本 たつや (高屋)
- 小やぶ あやか (大恵山) 抽
- みしま たくみ (大恵山) 抽
- たにかいと (大恵山) 抽
- さとう はな (福芦) 抽
- 竹本 彩乃 (福芦) 抽
- 無記名 1枚

【小学校高学年の全問正解者】

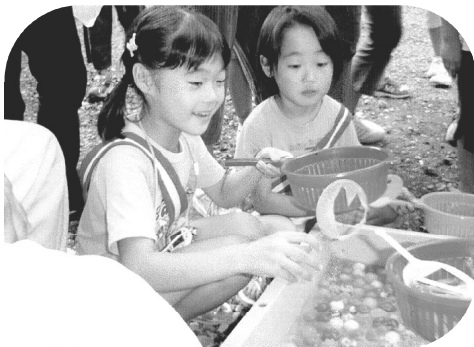
- さくら はずき (島根)
- 安達 亜妃 (島根)
- 門脇 里央 (島根)
- 内田 絵美 (雲東)
- 竹下 つかさ (簸ノ川)
- 湯浅 紀子 (簸ノ川)
- 湯浅 郁子 (簸ノ川) 抽
- 門脇 祐子 (龜田山) 抽
- 上野 眞夏 (興明) 抽
- 市木 藍 (興明) 抽
- 吉岡 ちなつ (興明) 抽
- 津國 葵 (興明) 抽
- 久富 ひかり (興明) 抽
- 森田 真由 (興明) 抽
- 山本 みすず (興明) 抽
- 無記名 2枚

【中学生全問正解者】 無し

9問正解者は

- 富岡 祐希 (稲倉) 抽
- 西山 竜矢 (稲倉) 抽
- 安原 隆平 (稲倉) 抽
- 北川 歩 (稲倉) 抽
- 内海 由喜 (葦陽)
- 吉岡 賢哉 (福芦) 抽
- 立石 正大 (福芦) 抽
- 棗田 祐一朗 (福芦) 抽
- 竹本 裕貴 (福芦) 抽
- 余村 喜久代 (多古浦)
- 田中 匠 (簸ノ川) 抽
- 無記名 1枚

《順不同》



こどもおぢばがえり 詰所内クイズ

〈問題〉と〈答え〉

【低学年】

1. みんながさんせいしてのむのみものはなあに
〈答え〉ソーダ
2. とにはさまれた「ま」とはどんなやさしい
〈答え〉トマト
3. いろがついていても、しろいというたても
なあに
〈答え〉しろ(城)
4. つかうときにはねがのびて、つかわないとき
にはほねがおれるものなあに
〈答え〉おりたたみかき、かき
5. 「2345」てなあに
〈答え〉にんじん
6. いつもまんいんのくるまなあに
〈答え〉きゅうきゅうしゃ
7. でかけてもすぐにもどってくるいきものなあに
〈答え〉かえる
8. いつもころんでいるばかりのむしなあに
〈答え〉ばった、てんとうむし
9. 1はでも 2はというとりなあに
〈答え〉にわとり
10. かみはかみでもこわいおおきなかみはなあに
〈答え〉おおかみ

【高学年】

1. 高いたてものにぼうを一本いれたらあわの
るのものになったよ。さて、なあんだ。
〈答え〉ビール
2. さいしよはしろいけれど、たべるときにひや
けをしてでてくるものなあに
〈答え〉トースト、おもち、食パン
3. はが4本だけのいぬつてなあに
〈答え〉しばけん
4. きれいな声でなくいすはなあに
〈答え〉うぐいす
5. 顔の中に「つ」を書いて泳ぐ魚なあに
〈答え〉かつお
6. 目の上に鈴をつけているとりはなあに
〈答え〉すずめ
7. ぬるぬるしているのに焼くとカバになるもの
なあに
〈答え〉うなぎ
8. 目の前にいるのにいないと言われる動物は
〈答え〉犬
9. ドアをノックすると出てくる動物は
〈答え〉豚——トントン、きつね——こんこん
10. 誰かが来るまでじっと待っている虫は
〈答え〉松虫

【中学生】

1. どんな魚にもしがみついている子は
〈答え〉うろこ
2. 目にヒゲがはえた生き物は
〈答え〉貝
3. 「犬」をあとというまに大きくするにはどう
する
〈答え〉点を取る——大
4. しまったかぶりをする鳥と魚は
〈答え〉たかぶり
5. 蔵の真ん中に字を書いたら動物になった
〈答え〉くじら
6. 動物のイモリが持っている甘いお菓子は
〈答え〉もなか
7. リンゴの下に隠れている数字は
〈答え〉5
8. 顔の周りが全部耳の食べ物は
〈答え〉食パン
9. レストランで「お茶を半分下さい」といった
ら出てきた食べ物は
〈答え〉チャーハン
10. おじいさんが孫を逆さにして振ったら何かが
出て来た
〈答え〉ゴマ



感想文より

▼佐々木 亨

僕は、今回初めて学修に参加しましたが、来てよかったと思っています。僕の班はほとんどの人がいい人でもカウンセラー、講師の先生共に素晴らしい人達ばかりで本当にメンバーに恵まれていました。

やはり最初はあまり話せませんでした。班長になった人が、沢山話してくれて皆を盛り上げてくれました。少し恐そうな感じの人もいたけど少し話したら見方が変わったりしました。

初日はチームエクササイズがあって、軍隊の練習みたいでした。僕は野球してたし、声出しも経験していたから、あまり苦痛ではありませんでした。それが終わると、みんな帰りたいとか、何できてしまったんだろ...と言っていました。けど、それを一緒に乗り越えた仲間達は、1日目にもかかわらず、心なしか、団結していたかと思えます。元々、メンバーはほとんどがいい人らばかりで、

すぐに仲良くなりました。でも本当の友達とはまだ言えませんでした。

僕らの班に、1人だけはまだしぎみの女の子がいました。そこで男子のみんなで夜に話をしました。始めはみんな気持ちを出さなかったけど、段々と、本音でトークをするうちに、話しに熱が入り、皆の心がつながった気がします。それから、毎日のように本音トークを続けて、消灯過ぎても部屋に集まって、怒られながらも4班を良くしようとトークを続けました。それから、カウンセラーの先生、講師の先生も熱心に生徒と話したり、考えたりしてくださったおかげで、だいたい男女なじみました。

しかし、男子に一人だけいい加減な人がいて、けんかになりました。それで皆が言いたいだけ言ってたくさん泣きました。そして次の日、その人も心をいれかえ、みんなが一丸となりました。はみだした女の子も、最後には笑顔を見せたりしていました。そして、みんなが大泣きして別れました。この学修でみんなが最高の仲間になりました。

カウンセラー講師、メンバー、お世話してくれた人、皆に感謝です。そして、天理教万歳です。これから無理をしない範囲で、天理教をより信仰していこうと思います。

▼高島 元恵

初めて学生生徒修養会に参加して、いきなりチームエクササイズがあって、どんなものかなあと思いました。チームエクササイズは、きびしいけど、後から、すごい声を出せてのでよかったです。夜のあいさつで、足がつかれたりしたけど、りょう先生の話の時に、すわれたので良かったです。2日目は、朝づとめで早く起きらないといけんで、ねむたかったです。レクチャーは、ねむくて、ねてしまった時がありました。

3日目にひのきしんをして、めんどくさいかと思ったら、すごい楽しかった。

4日目にワークシヨップをして、ちょっとつまずいたことがあったけど、大きな声ではっきりといえたのでよかったです。

5日目に、楽しかったことは、チームマーチングチャンピオンシップで、グランプリをとって、すごいうれしかったです。(22班)

6日目に、大きな行事として、感話大会を見ました。感動するような話して、涙はがまんしてました。全体のつどいで、ちょうもりあがりですごく楽しかったです。退寮式ですごくいきみしくて、涙が出て歌えにくいと思ったら、歌えたのでよかったです。

まだ、学生生徒修養会に行くかは決めてないけど、ひまだったら、また行こうかなあっと思っています。以上です。

▼田 中道徳

自分はこの学修に参加して色々なこと、たくさん
の自分を学びました。

たくさんありすぎて全ては書けないけど、今ま
での自分を特に変えてくれたものを書きます。

まずは、学修中に見せてもらった身上です。こ
の身上は学修の4日目、折り返しの日に出てきま
した。その日から自分は班の皆と共に歩いたり、
行動したり出来なくなり、毎日のように救護室
(所)に行っていました。この身上は辛くて、何度
もくじけそうになりました。でも、そんな時、班
のみんなやカウンセラー、寮の方々、救護の方々
に励まされ、何とか無事に学修を終えることが出
来ました。自分が辛いときに『大丈夫?』『ガン
バレ』と声をかけてくれたことが自分の力になり、
元気の源になり、そして、友情、人への優しさ、
生きることの辛さと楽しさ、感謝を自分に教えて
くれました。

最後に、班の人やフロアの友達、寮の人たち、
そして、この学修で出会った全ての人々です。
自分の辛い時には励ましてくれたり、悲しい時に
は一緒に悩んでくれたり楽しい時に一緒に楽しん
でくれる人々ばかりです。この人々がいないれば
今回の自分の学修はなかったと思うし、新しい自
分を発見することもなかったと思います。

この学修の経験や楽しさ、辛いいろんなものを

一生忘れず、これから生かしていきたいです。

学修サイコー!!

▼内田 沙織

最初は、私は口べただけん、友達が出来るか心
配だったけど、みんなフレンドリーでたくさん
の友達ができてうれしかったです。

あと私は、3日目ぐらいからおなかがい
たくなったり、かぜでせきがすごいでたときに、み
んなが私のために涙を流しながら、おたすけをし
てくれました。そのときはこんなに私のことを思
ってくれて、心配してくれる大切な友達がいて
くれたんだあってすごく感動して涙が止まりませ
んでした。

とてもうれしかったです。で、そのおたすけ
のあとぐらいからなんとせきが止まり、だいぶん
くになりました。

そうならしてくれたのも、大切な友達、カウ
ンセラーや、親神様に感謝しなければいけないと思
いました。

本当いろんな面で、楽しいこと、つらいこと、
うれしかったこと、学んだことがあっていい経験
ができたし、良い思い出になりました。

またこんども学修いきたいと思えます。

学修サイコー!!

修養科生の声

修養科、そしてこれからの私

大教会 上原 大安

私は立教168年5月25日から三ヶ月間の修養科に
志願させて頂きました。一年間通っていた大学を
辞退し、それから一番早い時期がこの70期だっ
たので、迷う事なく自ら志願させて頂きました。私
がこの修養科に来させて頂いたきっかけは、自分
で感じる自らの癖・性分の改善、又、大学に入っ
てからの自分の天理教に対する不満や疑問の確
認をしたかったからです。

修養科生活が始まって一カ月目は、自分でも反
省の連続でした。全く知らない人と共に生活をし
て行く事に少し戸惑い、慣れない早起きや、起床
とともに始まるひのきしんや毎日の修練。自分の
当初修養科に志願した目的を考える暇もなく、た
だ生活のペースを掴む事に精一杯。気がつけば本
当に風のように過ぎてしまった一カ月目でした。
でもそんな一カ月目の生活の中でも、国々所々か
ら集まったいろんな年齢層の人と関わり、十人十



色の様々な価値観や考え方に触れ合わせて頂いた事は本当によかったと思いました。

二カ月目に入ると、段々生活のペースにも慣れ、詰所だけではなく学校でもいろんな人と触れ合う機会が多くなりました。学校での会話の時間や修養科の先生方から頂くいろんなお話しなどは、私にとってとても貴重で有意義な時間を感じさせて頂きました。そして二カ月目の末から三カ月目の頭にかけて行われる天理の大イベント「こどもおぢばがえり」。修養科での授業はなかったものの、それに代わり詰所やおぢばがえりの特別ひのきしん、息をつく間もない程に忙しい十日間でした。でもその中で共に頑張る修養科やひのきしん者、帰ってくる多くの人達の笑顔などに元気づけられ、しんどい中も喜び心で通らせて頂いたのを覚えていきます。

今私は修養科三カ月目の中頃を向かえています。私にとってこの二カ月半という修養期間はとてもよかったと思えるし、自分がやるだけの事は精一杯やってきたと胸を張って言える自信があります。ただあなたはここへ来て何を得ましたかと言われても、多分今の時点では何かと具体的には言えません。それはここで経験した事や学んだ事を、ここを出た後に自分がどれだけ日々の生活に生かせるか意識を持ち続けられるかで決まると思うからです。今の時点間違いなく言える事がある

とすれば、「ここに来て本当によかった」と思える自分の気持ちだけです。残り少なくなった修養生活ですが、私は今月の詰所月次祭の祭主という大役を頂いていますし、この今の気持ちを忘れる事なく、当初の目的を忘れる事なく、精一杯通りきらせて頂きたいと思います。

修養科生活も終わりに近づいて…

久松分教会 中村京子

修養科に志願して、実際におぢばに来るまで、『めんどくさい』『いやだなあ』と、思っていました。3ヶ月も地元から離れ、おぢばで過ごす事を苦痛にしか思っていませんでした。

実際に、修養科に入學してみると、楽しくて、友達がたくさん出来たし、毎日が楽しかったです。この多い修養科生の中で、同じ地元や、地元が近いとともうれしかったのを覚えていきます。

ひのきしんでは、夏の大イベント『こどもおぢばがえり』は、大変だったけど、子供たちの笑顔を見ると、とても楽しかったです。

長期ひのきしんでも、代理としてしか当たらないかっただけど、いろいろなひのきしんをさせていただきました。修養科生でしかめつたに入れない、神殿お守所や、会議所、地下道のひのきしんを1

回ずつですがやらせていただきました。他には、おふきん洗いのひのきしんには、何度かさせていただきました。代理でしたが、こんなにいろいろなひのきしんに参加させていただいたのでうれしく思っています。

私は、この修養科で、別席の、「お誓いの言葉」から勉強させていただきました。別席では、少し寝てしまう事も何度ありましたが、席を運んで行って、満席に近づくにつれて、おさづけをいただく日を、待ち遠しくしている私がいる事に気がき、うれしく思っています。

朝などは、ことに早く、朝の弱い私には、とてもつらかったです。早く起きれない事で、同期の修養科生さんに迷惑をかけてしまいました。でも、そんな私に、『少しずついいから、起きておいで』と、とても優しい言葉をかけていただいて、とてもうれしかったです。

この修養科では、大切な友達と、大切な笠岡の同期の修養科生さんなど、いろいろ大切なものをいただきました。最初は、早く帰りたいと思っていたけど、少し帰るのがさみしくなっています。先に、修養科を修了した人の話を聞いていると、『3ヶ月は、あつという間だし、帰りたいなくなると、言われて、本当かなあ?』と、思っていたけど、実際に、3ヶ月間をもうすぐ終わる今の私には、分かる気がしています。3ヶ月間、本当に、楽しかったです。

談話室



出づい めの三ノA

神村分教会前会長 下田輝夫

前生の因縁よせて守護すると云われる夫婦の出会い、縁は異なものと云う世間の言葉、夫婦となるべき男女の出会い、これは実に不思議なものであり、又面白いものだと思います。私事を述べて紙面を汚す事を御許し下さいまして、御目を通して頂ければ幸せに存じます。

若い頃を振り返ってみるに、私には四回出会いの機会がありました。

最初は、同じ年のいとこを貰えと、伯父が仲に入ってくれて話がきまり、すぐに挙式するのでな



く約束だけと固めの酒を納めました。所がこれは事情が出来て御破算になりました。信仰に無関心だったのでこれで良かったと思っています。

次にありましたのは、部内のA布教所長さんが

〇〇に良い娘がいるから見合いをしないかと、昼に届いた手紙に書いてあって、其の日の夜本人を連れて家まで来て下さった。其の頃結婚の事など全く考えていなかったもので、これには私も面喰って、エーッてなもので、実は其の頃、松永市消防団のポンプ操方大会(自動三輪車の部)で優勝して、県大会に出場する為に毎晩小学校の校庭で訓練をしている時で、選手六人の中一人欠けても訓練が出来ないので、折角ですが話(見合い)なんかして居れないと、お客さんをほったらかして訓練に出て行った。申し訳ないけど、その気がないし、余りに急な事で私も対応の仕方がない。

その夜は家に泊って貰ったが私の帰りは夜中近くである。翌日その気がないのでお断りしたが、後日その娘が私の印象を、声がとてもきれいな人だと云ったと聞かされ、今迄何とも思っていなかった自分の声をいささか気にするようになった。

それから何年か過ぎて、或る宴会で下津井節を歌った時、同席していた福山市内の大きな呉服屋の奥さんから、貴方の声を買えるものなら百万円で買いたいと、ずい分はめて頂いた事がある。カ

ラオケのまだ無い頃である。自分では何とも思っていない声をこんなにもで云われるとは、自分の声を自慢する気持は毛頭ありませんが、高く評価して

頂いて本当嬉しかったのと、親に感謝の気が湧いて有難いと思つたのは事実です。柔

か優しい言葉、人様に喜んで頂ける声の使い方、こんな事を思う様になったのはこの頃からでした。

話は横道にそれましたが、三番目にありました話は、私の理想とするものを九九・九九パーセント兼ね備えていると思える良い娘の出現でした。二・三回会っただけで長い付き合いをした訳ではないが、何故か心をひかれて、この人を仲に立てたら絶対OKになると勝手に思い込んで、お願いしたら返事はノーと返って来た。この時私の心に浮かんだ事は、神様が私に丁度良いと思われればOKの返事、神様がこれはいけなと思われればノーと云う返事が来るだろうと、こんな気持ちになっていた。そしたら私の思いに反してノーと云う返事が返ってきたのである。(以下次回に)



温故知新

親は有り難い、 苦勞は宝、 道は素晴らしい

米府分教会前会長 三代 正道

戦前、戦中、戦後と激動の中で、齢重ねて八十年。動員学徒兵の学友も随分と若い命を散らせ、痛惜の極みです。幸い、生を得て戦後六十年の節目、よくぞ色々な道すがらの中、叱られ、励まされお導き下さった先人達にお礼を申している日々です。

私の祖父(米府分教会の初代)を知る人も私一人となりました。小学四年の頃、神殿前の松の枝先の色を眺め乍ら、今、誰々が難儀をしている。早く誰かお助けに行つてやれと、全く眞の出来事に子供心に神様だなア…と感心したものです。生涯を助一条三昧に捧げた初代に、ふと浮ばして下さった理でしょう、常識外のことでした。

六年生の修学旅行は、父と担任先生との会話の一言で二〇〇人中私一人が不参加でした(現在は不可)。父答えて曰く、「此の子は将来日本全国を

廻らねばならぬ日が岐度来るから、今は関西旅行には行かせません」との事、暫く父を恨んで泣き通しました。

今にして回顧すれば、若い中にすっかり出来ない辛さを通らして置かねばと云う父の親心に感慨ひとしおです。父の言葉通り国内、海外と随分歩かせて頂きました。

私の教会長二十年間、七十年祭の前には教祖恋しさに、親に内緒で自転車で殆ど石がら道の道中、野宿を重ね、天理時報を配り乍ら三日掛けておぢばへ到着、眞棟(一番最初のやかた)の堀り方ひのきしん、重機もダンプも無く、人海戦術で全員「ひとことはなしはひのきしん」の歌を口ずさみ乍ら感激一杯で青年の意気を燃やしました。

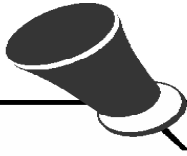
教祖八十年祭頃、故上原郁雄前会長様より、戦前サハリンに在った教会(樺島分教会)を移転復興せよ、然も、笠岡部内では、東京以北には名稱が無い故、必ず北海道内だと云う嚴命を頂きました。信者も無く、金も無く、途方に暮れ、兎角、腹の立ち易い私、そんなこと出来るものかと前会長様を心の中で睨みました。然し、父も既に晩年でしたが、「いや、親の言はれた事は信じて通れ。教祖は働いて下さる、必ず成って来る、精魂込めて通れ:」と諭し、励まして呉れました。お陰で、十年後、苦小牧市に復興の御守護を頂き、奉告祭には、前会長様が「私も無理を言ったが、心の中

は君以上につらかったんだ」と帰路、札幌空港で言はれ、肩を抱き合せて喜んで下され、私の形見だと思つて見守ってくれと、よろづよ八首の額を書き残して下さいました。親は有り難いですね…。

八十年祭より百年祭へと、大教会移転建築、詰所ふしん、親里やかたふしん、本部神殿建築、上級島根、及び自教会の建築と全く息つく暇も無い程の御恩報じの連続でした。

上級島根の役員会でも、未だ足りん。借金しても運んで来いと、故・四代会長様のお仕込み。皆どうしたものかと、思案顔の中、必ず出て来るのは、笠岡の分離昇格問題、北礼拝殿建築にまつわる御本席様百日のおさしづ、談じ合いは長時間に及びました。当時の用木の方々は、眞に私心を捨て、伏せ込み一杯とつないで下さいました。筋金入りの信仰でした。時々用木の後姿を拝みました。

詰所も、大祭月、誕生祭、子供団体と超満員、廊下で寝たり、他の施設や詰所にも赴きましたが、一寸も苦になりませんでした。今なら大分、文句も出ると思いますが、信仰は感激一途ですね。昭和三十年代、島根参拝にオンボロ車を手に入れ、四十軒の道程でしたが、途中で何回も動かなくなりました。暖房も無く、豆炭アンカを股に挿込んでいた父が「又、島根の祭典に間に合わず、もう終わる頃だなあ」と然し、「しんどの中に実が有



実践項目集計 (6月)

百万軒にをいがけ	60,223軒
おさづけのお取次	4,560回
身上事情お願い	875件

る、楽々の中に実はない、岐度、神様や島根の會長様は喜んで下さる。今、持つてるお金で車は買えるが、先樂しみの実の種にしておくからな、よう覚えて置け」と。
 今でも父の寫眞を見ると、私の不甲斐なさが、思われてなりません。
 初代の頃より、教会の伝統で、食事は、住込人、入り込人、教会長家族全員一緒です(今も同じです)。精神病、アルコール依存症、身体障害者、

生活保護、家庭崩壊、失職、離婚、孤児等々、寄り合い世帯でした。皆、用木となって頂きましたが、成人への道は仲々ですね…。

道の上には微細な私でしたが、以来、教区長十二年間も合せて両眞柱様のお入り込みも頂戴し、其の間、脳も膜下出血、肺氣、腹膜血・と危険な手術も重ね、今日迄、不思議な御守護に導かれ、尚、先般、五日、福祉用木として突然に叙勲の栄に浴し、家内共々、皇居に参内、陛下の拜・を賜



▼養徳社発行『陽氣』誌八月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「一身」、選六十三句中、笠岡に繋がる教友の方一名、一句が見事選ばれ掲載されていましてので転載させて頂きます。おめでとうございます。

準秀詠 故 油木分教会長 黒瀬修式

身に余る使命尊び日々勇み

▼病喜録

あの日からもう六十年も過ぎたのか
 戦艦大和の模型静かに

つぎくと水晶玉が落ちて来る

半眼にして点滴数え

さわやかな風の香りに秋桜が

ふれあいクラブの花壇で唄う

わり、改めて、本部神殿に参拝、疊の上に、したたる感激の涙に頭も上がらず、数十年の年を忘れて、励まして下さった親、先人達の遺訓を想い返し、先人の足跡に更に親孝心の思いを重ねて命の限り道の御用にお使い頂き度いと教祖にお誓いいたしました。

毎日が有難い、勿体ないの心一杯です。

▼空と心と太陽と

詩 かくしん

一、ソーラー目をとちて 両手をひろげ

心開いて とび立つ思いに

ソーラー 明日を夢見て

東に太陽 残月西に

二、ソーラー 青く青く高く

心すまして すみきる思いに

ソーラー 鳥等の喜び

夏の太陽 稲ほ みのりて

三、ソーラー 真赤にもえる情熱の

心もやして おどる思いに

ソーラー 明日への希望

しづむ太陽感謝よろこびひのきしん

七月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に会長上原理一慎んで申し上げます

親神様には元の親・実の親として一列の子供かわいいの親心から天然自然のお働きを通して自由の御守護を賜りお育て下さいます事は誠に有難い極みでございます
 加えて「めへくのみのうちよりのかりものをしらずにいてハなにもわからん」と身上や事情にするしを見せるだけでなく火水風の御守護に異常を見せて心の成人を促して下さいます事は勿体ない極みでございます

早くからお道にお引き寄せ頂きました私共は常に喜びと感謝の心一杯に朝夕に御礼申し上げると共に成りてくる理が成人への導きである事を未だ判らず苦しみに喘いでいる人に少しでもその思召を伝え御恩報じの大切さを伝えるべくにをいがけおたすけに励ませて頂いております

その中にも今日の吉日はぢばに於けるかんろだいのつとめの理を受けぢばの理につづいて勤める大切な御祭日でございますのでおつとめ奉仕者一同心を引き締め陽気に勇んで座りづとめてをどりをつとめて七月の月次祭を執り行わせて頂きます
 御前には暑さ厳しき中も厭いませず寄り集い言改めて御礼申し上げる皆の真実の状を御覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

又今年も子供おぢば帰りに一人でも多くの子供さんを連れ帰り親神様教祖におぢばへの伏せ込む姿を御覧頂きたいと存じますのでどうぞ事故怪我等ないうお連れ通りの程をお願い申し上げます

更には又教祖百二十年祭まであと六ヶ月となった今日尚一層年祭への成人の思いを強くし教祖にお喜び頂けるよう御恩報じに徹してにをいがけおたすけにと邁進させて頂く覚悟でございます

何卒親神様には教祖年祭に寄せる皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして万たすけの上に尚も自由の御守護を賜り人々の心にかしものかりものの理が治まり喜びと感謝の心に立て替わり共にたすけ一条の御恩報じの道を歩む人が弥増しお望み下さる陽気づくめの世の状が一日も早く実現しますようお願いの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

◆第24回女子青年大会

【テーマ】 あふれる御守護に感謝して 笑顔で喜び伝えよう

【主催】 婦人会本部

【内容】 ・ビデオ上映
 ・式典(婦人会長様からのメッセージ、他)
 ・記念講演

【対象】 女子青年

【参加御供】 500円

*日時・会場は、『かさおか』7月号掲載の一覧表を参照願います。
 ひとりでも多くの参加をお待ちしております

◆第81回 天理教青年会総会

全青年会員が教祖のお待ち下さる親里ぢばに帰り集い、
 青年会長様のお言葉に心の向きを揃え、
 更なる実動を誓い合う場。

我が分会の青年会員、こぞつとめぢばへ結集しよう!

【式典】 日時 立教168年10月27日(木) 午前10時
 場所 本部中庭

◆各行事に参加ご希望の方は、

各ブロックの担当者にお申し込みください

大教会だより

◎教会長資格検定講習会修了者

後期 立教168年7月19日終講
米府 塩田能往

前期 立教168年8月14日終講

甲井 山田耕治
多古浦 田中邦枝

◎第七六九期修養科一期講師

自 立教168年5月1日
至 立教168年7月27日

簸ノ川 津森朋之

◎直属ひのきしん特別隊(営繕)

自 立教168年7月1日
至 立教168年7月25日

陽實 下宮真治
(10日勤務)

芦加茂 小川幸平
上下 山野季彦
芳井 山口晃司
(5日ずつ交替で勤務)

◎子どもおぢばがえり

詰所受入ひのきしん
自 立教168年7月25日
至 立教168年8月4日
(順不同)

神邊	小坂百合子
高屋	福田和子
簸ノ川	津森一重
海松ヶ岡	森本洋子
久福	佐藤憲美
東城	横山逸郎
引野	谷屋富男
金浦	西江昌直
吉舎	時宗真一
吉舎	茨木百恵
吉舎	瀬尾明代
瑞雲	豊田俊美
出雲	高島直道
明石市	西江絹恵
島根	面谷美恵子

計 報

黒瀬修弉氏

大教会準承事

油木分教会長

八月八日出直されました。
享年 六十八才



教祖百二十年祭が、あと半年足らずと切迫した今日、私もある事からやっと重い腰が上がり戸別訪問に出させて頂く様になりました。「お宅では困り事や悩み事はございませんか」「いや家では皆幸せに暮らして居ります」と大抵その様な返事をされる。取りつく島なくお茶を濁して引き下がる。時には「〇〇で困っているが、何をしてくれる。何が出来るのか」と怒られる事がある。そんな時には、こちらが一番困る。

論達二号で真柱様は、年祭活動の成人の歩み(実動)は「をやる思い」をにをいがけ、自らが教を日々実行し身近な人達に信仰の喜びを伝える事、又、身上事情に苦しむ人のおたすけは、元を教えてたすけることで

あるとお諭し下さいました。

そして、「にをいがけドリル」は、それを楽しみながらする方法を教えられている。

しかし、要は、相手が何で困っているか、それが分らなければ手あては出来ないし、前へ進めない。

当教会での、にをいがけ、おたすけ実修会に来られた若い女の会長さんは、訪問先の奥さんに会った時、主人のギャンブルで困っておられると心に浮かんだので、お話しさせて頂いたら大変熱心に聞いて下さったと伺い、もう大したもんだなあと感服致しました。

教祖は、貧に落ち切らねば難儀している者の心が分らないと仰有った。

にをいがけに出て難儀している人をさがしているこちらが、しっかり困って難儀させて頂いて、その人を一目見ただけで何で困っているか見えて来る様心を落させて頂き、果てしない親心に微力ながらお応えさせて頂きたく思っています。(え)